

第3学年 音楽科学習指導案

指導者 石塚 理恵

1 題材名 創作「My Melody II」

2 目標

○旋律や構成の特徴に関心をもち、その特徴を生かした音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付け、思いや意図をもって旋律をつくる。

3 指導にあたって

本題材は、A表現(3)事項ア「言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。」と、〔共通事項〕ア及びイを踏まえて構想した創作分野の学習である。

生徒は、これまでに、創作分野の学習として、リズム創作、リズムに旋律をつける旋律創作を行ってきた。「音符」と「音」を限定して、段階的に学習を進められるようになり、1年生から取り組んでいるアルトリコーダーを表現媒体としたりすることを手立てとし、生徒が意欲的に創作活動に取り組めるようにしてきた。その結果、リズム創作が「楽しかった」と答えた生徒が大半を占め、リズムに旋律をつけた旋律創作が「楽しかった」と答えた生徒も多く見られた。しかし一方では、自分のイメージ通りに作品をつくることが「難しい」「楽しくなかった」と答える生徒もいた。

生徒の実態を踏まえ、「リズム」や「音（和音の構成音）」、「小節数（16小節）」などの条件を設定した上で、既にアルトリコーダーで主旋律を演奏することができる「ラヴァースコンチェルト」の副旋律をつくる活動を行う。その際、教師自作の創作セット（8資料参照）、表現媒体としてアルトリコーダーと併せてキーボードを各班1台ずつ活用できるようにする。このような手立てによって、試行錯誤しながら、イメージしたことを表現できるようにすることが、旋律をつくる楽しさや喜びを味わうことにつながると考える。

4 題材の指導と評価の計画（2時間扱い）

時	主な学習活動	評価規準
1	<p>① 「ラヴァースコンチェルト」 ・主旋律や構成の特徴を捉え、和音の構成音を使って副次的な旋律をつくる。</p>	<p>○旋律や構成の特徴に関心をもち、それらを生かし音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 (音楽への関心・意欲・態度)</p>
② (本時)	<p>② 「ラヴァースコンチェルト」 ・音のつながり方やリズムを工夫して、主旋律に合う副次的な旋律をつくる。</p>	<p>○旋律や構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、その特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 (音楽表現の創意工夫)</p> <p>○旋律や構成の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能（音のつながり方、音色の選択、記譜の仕方など）を身に付けて旋律をつくりっている。 (音楽表現の技能)</p>

5 本時の指導

(1) 本時の目標

○音のつながり方やリズムを工夫する活動を通して、思いや意図をもって主旋律に合った副次的な旋律をつくる。

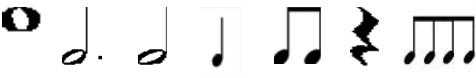
(2) 「学び合い」を通した言語活動の充実に迫るために

自分のイメージや思い、意図などを相互に伝え合う活動を位置付け、創作活動の充実を図ること

とを通して、仲間とともに創意工夫をしながら表現する喜びを味わい、一人一人の音楽に対する意欲を広げるようとする。

(3) 準備・資料 ラヴァースコンチェルトの楽譜 音符カード ワークシート アルトリコーダー キーボード 創作セット

(4) 展開

学習の流れと形態	学習活動・内容	支援の手立て(○) 評価(◎) A:十分満足, B:おおむね満足 ※個への支援
出会い 課題 解決	<p>1 教師の範奏を聴く。</p> <p>2 本時の学習課題を知る。 ラヴァースコンチェルトの名脇役の旋律をつくろう</p> <p>3 表現の工夫をしながら副次的な旋律をつくる。 <音符と休符例></p>  <p><各小節の和音の構成音例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドミソ (ド) ・ミソシ ・(ド) フアラド <p><活動の進め方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音符と音を選ぶ ・アルトリコーダーまたはキーボードで試す ・記譜をする ・主旋律と合わせる ・修正をする <p>4 つくりた副次的な旋律を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律と合わせる ・見付けた工夫点等について発表する 	<p>○教師がつくった副次的な旋律を聴くことで、「名脇役の旋律をつくる」という本時の学習への見通しが持てるようとする。</p> <p>○教師が使える音符や休符、和音の構成音を指定することで、無理なく創作活動ができるようする。</p> <p>○リズムを理解できるようにするために、手をたたいて確認する。</p> <p>○指定した音符以外を使用したい生徒は個人的に支援していきたい。</p> <p>○アルトリコーダーやキーボードで音やつくった旋律を確認しながら、活動を進めることで、イメージしたことの表現できるようする。</p> <p>○主旋律と合わせる活動を取り入れることで、主旋律にふさわしい副次的な旋律になっているかを確かめ、音のつながり方やリズムを工夫できるようする。</p> <p>※活動がなかなか進まない生徒には、基本的なリズムを提示し、まずは、そこに音を当てはめていくよう支援する。</p> <p>※早く終わった生徒には、自分の作品を繰り返し演奏しながら更に工夫をしたり、主旋律と合わせて演奏したりするよう促す。</p> <p>○旋律や構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、その特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">(音楽表現の創意工夫)</p> <p>A : 音のつながり方やリズムの特徴を生かし、どのように主旋律に合った副次的な旋律をつくりたいかの思いや意図をもっている。</p> <p>B : 音のつながり方やリズムを試しながら、どのように主旋律に合った副次的な旋律をつくりたいかの思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">【ワークシート、楽譜】</p> <p>○ペアになり、主旋律と合わせて発表できるようする。</p> <p>○各自がつくりた副次的な旋律の工夫点に着目させて鑑賞できるようする。</p> <p>○旋律や構成の特徴を生かした音楽表現のために必要な技能(音のつながり方、音色の選択、記譜の仕方など)を身に付けて旋律をつくりている。</p> <p style="text-align: right;">(音楽表現の技能)</p>

		A : 和音の構成音とそれ以外の音を適切に使って主旋律に合った副次的な旋律をつくり、正しく五線譜に表している。 B : 和音の構成音を使って主旋律に合った副次的な旋律をつくり、五線譜に表している。 【楽譜】 ○自己評価を通して、本時の学習を振り返れるようする。
5	本時のまとめをする	

6 板書計画

創作 「My Melody II」

ラヴァースコンチェルトの名脇役の旋律をつくろう

ラヴァースコンチェルト

4	3	2	1
1	2	1	

7 生徒の意識調査（実施人数 26人）

創作活動についてのアンケート その2（音楽科）

♪1 昨年度、リズム創作活動をやってみて

楽しかった	(16人)	どちらかといえば楽しかった	(8人)
どちらかといえば楽しくなかった	(1人)	楽しくなかった	(0人)
その他 難しかった	(1人)		

♪2 ♪1の理由

- 自分のイメージにあうリズムがつくれた
- 工夫したり、友達と協力できた
- 初めてやったりした
- どういうリズムにしたらいいか大変だった

♪3 リズム創作にメロディをつけて曲を創ってみて

楽しかった	(17人)	どちらかといえば楽しかった	(6人)
どちらかといえば楽しくなかった	(3人)	楽しくなかった	(0人)
その他	(0人)		

♪4 ♪3の理由

- 思ったより難しくなく自分のイメージ通りにできた
- つくる人によって全く違うものができる
- 難しかった
- イメージ通りにできなかった

♪5 今後創作活動でどんなことをしてみたいですか？

- もう少し長いメロディをつくりたい
- アルトリコーダー以外の楽器で演奏したい
- フリーで曲をつくりたい
- 歌詞をつけたり、それにハーモニーをつけたい
- 複雑な音符をつかいたい
- クラスで1曲つくりたい

8 資料

○創作セット

<音符と休符のカード>



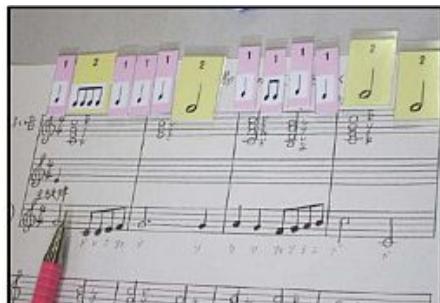
音符と休符カードは、1拍 = 1 cmで作ってある。例えば、四分音符は1 cm、二分音符は2 cmである。

また、拍の理解が不十分な生徒が多いため、1拍をピンク、2拍を黄色、3拍を緑、4拍を水色に色別にすると共に、音符の上に拍数を数字で示した。「1小節はカードの数字をたして4になるように」という支援もできるようにした。

<音符と休符カードに合わせた五線譜（ワークシート）>

今回は4拍子の旋律づくりなので、1小節を4 cmにした。音符や休符カードを組み合わせて、4拍以上になると、小節線よりはみ出てしまい、少ないと余白ができてしまう仕組みである。

以下は、実際に創作セットを使っている様子である。



【生徒の作品 1】

【生徒の作品 2】

ラヴェル・コンクールの曲題の旋律をつくろう

決めてよい音

(a)

(b)

(a)

(b)